

■ 2004年12月31日(金曜日)

# 県政フラッシュ 2004年

## 元気な産業

### 本県産業の活性化に向けて

～「挑戦(チャレンジ)ふくいー福井県経済社会活性化プラン」の推進～

● 「福井県産力戦略本部」の設立

産学官の連携、最先端技術の開発を強力に推進するため、「福井県産力戦略本部」を設立。「最先端技術のメッカづくり」のための基本戦略を年度内に策定する予定です。

● 「ふくいジョブカフェ」の設置

若者の就職活動を支援するため、「県若者就職支援センター(ふくいジョブカフェ)」を5月に設置。7月から本格的に業務を開始しました。

● 短期ビジネス講座の開設

国際性と即戦力を備えた人材を養成する「県立大学大学院ビジネススクール」の平成18年度の開設に向け、今年度は短期ビジネス講座を開講しました。

● 「ビジット“ふくい”推進計画」の策定

有識者による懇話会の意見を踏まえ、本県観光の活性化をを実現するための「ビジット“ふくい”推進計画」を12月に策定しました。



福井県産力戦略本部会議

### 福井の命と豊かさを支える農林水産業の振興

● 活力ある水田農業の実現

生産性の高い水田農業を確立するため、広域的な営農体制の整備に取り組むとともに、加工米、麦、大豆など需要に応じたものづくりを推進しています。

● コシヒカリー族大集合イベント

国際コメ年にあたる今年、「コシヒカリーのふるさと・福井」を全国に強くPRするため、「コシヒカリー族大集合イベント」を開催しました。

全国で栽培されているコシヒカリーの両親、兄弟、子孫30品種を集め県農業試験場横の圃場で春には田植え体験、秋には稲刈りの体験会を実施。県内外の家族連れや海外からの研修生らが、福井米の魅力を満喫しました。

● 新しい品種「イクヒカリ」誕生

福井米の品種開発の成果として、新品種「イクヒカリ」が誕生。コシヒカリーのおいしさを引き継ぐだけでなく、いもち病や倒伏に強く、冷めてもおいしい特徴を持つ新品種に、大きな期待が寄せられています。



コシヒカリー族集合イベント

## 元気な社会

きめこまかな福祉

### ● 新県立病院のオープン

5月6日、最先端の医療システムと機器を備えた新県立病院が開院。最新の保育器を備える母子医療センターや女性専用外来を設置するなど、利用者の視点に立った医療サービスを提供しています。

### ● 子育て支援

病気治療中やその回復期の子どもを一時的に預かる「病児デイケア」の整備を促進。今後、県内全市に設置する予定です。

保護者が病気などの際に一時的に必要な子育て支援サービスを提供する「すみずみ子育てサポート事業」を推進しています。



新県立病院

## スポーツ、文化を通じて福井を発信

### ● スポレク福井2004

10月2日から4日間、県内19市町34会場を舞台に、第17回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク福井2004」を開催しました。祭典には延べ13万人が集い、生涯スポーツを通じて交流。開会式や特別行事、シンポジウムなど多彩な催しで、福井の魅力を伝えるとともに、福井豪雨から立ち直った元気な福井を全国に発信しました。



スポレク福井2004・開会式

### ● 白川静さんに文化勲章、高田稔浩さんに福井県栄誉賞

11月には、福井市出身で中国古代文化研究の第一人者白川静さんが文化勲章を受賞するという喜ばしいニュースがありました。

9月に開催されたアテネ・パラリンピック男子陸上(車いす)では、福井市出身の高田稔浩さんが金メダル3個、銅メダル1個を獲得。多くの県民に大きな感動と希望を与えてくれた功績を称え、「福井県栄誉賞」を贈呈しました。

### ● 元気福井っ子笑顔プランの推進

より教育効果の高いきめこまかな指導体制を確立するため、小学校1・2年では、生活指導のためのボランティアの導入を進めています。

小学校3～5年生においては、チーム・ティーチングや少人数での指導を強化するとともに、小学校6年から中学校3年については、少人数の学級編制を進めています。

## 元気な県土

### 災害・事故など危機対策の対応

#### ● 福井豪雨

梅雨前線の影響による局地的な豪雨や大型台風の被害に見舞われました。

7月の福井豪雨では、足羽川の堤防が決壊し福井市の市街地が冠水したほか、家屋の全半壊、橋梁の流出、道路の損壊が相次ぎ、大きな被害を受けました。

一日も早く、元気な福井県を取り戻すため、住宅の半壊・床上浸水を含めて、住宅の改築・補修や家財道具等の経費に充てることができる全国初の被災者住宅再建補助金の創設や、越前漆器、越前和紙の産地の再生支援など本県独自の復旧・復興対策を迅速に進めました。



高校生によるボランティア活動(福井市一乗地区)

#### ● 全国から災害ボランティアが結集

復旧に励む被災地には、県内外から数多くのボランティアが駆け付けました。匿名の方から2億円の当選

宝くじをご寄付いただくなど、皆さんの温かいご厚意は緊急の被災者支援金として被災者のために迅速・有効に役立てました。

また、県内ボランティアの県外被災地での活動に要する経費を支援できるよう県災害ボランティア活動基金条例を10月に改正するとともに、有識者による懇談会の意見を踏まえながら全国初の災害ボランティアの活動を推進する新たな条例を年度内に制定することとしています。

#### ● 原子力発電所事故

8月には、関西電力(株)美浜発電所3号機のタービン建屋で、二次系配管が破損して、二次冷却水の蒸気が噴出、11人が死傷する傷ましい事故が発生しました。

県では、関西電力(株)に対して、すべての原子力発電所を計画的に順次停止し配管を点検するよう求めるとともに、国に対して、発電所の高経年化対策を強化し、安全規制体制を更に充実させるよう強く要請しました。

この結果、12月16日には、国の高経年化対策検討委員会の第1回会議が福井市で開催され、具体的な検討を開始しました。

また、同月25日には、中川経済産業大臣が来県し、独立行政法人原子力安全基盤機構の県内事務所の開設など本県の要請に対する国の対応を明かにしました。

今後も、県民の立場に立ち、県民の安全・安心を最優先に、厳正に対処していく方針です。

## 高速交通ネットワークの整備促進

#### ● 北陸新幹線 着工へ

県民の長年の悲願である北陸新幹線の早期整備に向け、県をはじめ県議会や経済界、県民を挙げて、強力に要請活動を展開しました。

この結果、12月16日には、福井駅部の認可と新幹線本体予算による平成17年度の着工、南越・敦賀間の工事実施計画の認可申請が決定されました。

今後は、県内区間の一日も早い開業とさらなる延伸に向け努力していきます。引き続き、県民の皆さんのより一層のご理解とご協力をお願いします。



整備が進められているJR福井駅

#### ● 舞鶴若狭自動車道の整備促進

舞鶴若狭自動車道の整備については、全体の約40%の用地が確保されており、12月には敦賀市内において起工式が行われました。これに伴い、小浜、敦賀の両側から工事が進められることになり、これまで以上に整備の促進が図られるものと期待されています。

#### ● 中部縦貫自動車道の整備促進

中部縦貫自動車道では、本県が強く要望していた大野・油坂峠間のルート帯が12月17日に国から発表され、全線整備に向け大きく前進しました。今後とも、整備計画への組み入れや、福井・勝山間の平成18年度までの一部開通などに向け、努力していきます。

## 元気な県政

### 地方分権新時代に向けて

#### ● 市町村合併の進展

県では、市町村の行財政基盤の強化や行政サービスの向上など、多くの効果が期待される「市町村合併」を積極的に支援しています。

今年3月1日には、旧芦原・金津両町が県内で一番に合併し、「あわら市」が誕生。来年1月1日には南条郡3町村が「南越前町」に、2月1日には丹生郡4町村が「越前町」になることが決定しています。また、3月31日には三方・上中両町が合併し、「若狭町」が誕生する予定です。

#### ● 三位一体の改革



平成の合併第一号「あわら市」の開庁式



政府は、「地方が決定すべきことは地方自らが決定する」地方自治本来の姿を実現するため、構造改革の一つとして「三位一体の改革」(※注)を推進しています。

8月24日には、地方六団体が、政府の要請に応え、一致結束して「国庫補助負担金等に関する改革案」を取りまとめましたが、11月26日、政府から示された全体像は先送りされた事項も多く、今後とも、地方分権の実現に向けて努力していきます。

(注)「三位一体の改革」…地方分権を進めるため、「国庫補助負担金の削減」「国から地方への税源移譲」および「地方交付税の見直し」を一体的に行うもの

## 「健康長寿」ふくいの発信

### ●「福井ブランド」の創造

福井の魅力を強くアピールするため、福井が持つ「良さもの、優れたもの」を全国に発信し、県民がふるさと福井に自信と誇りを持てる取り組みを進めています。

その一つとして、地域のグループがさまざまな地域資源を組み合わせ、ストーリー性を持たせて付加価値を高め、ビジネスとして継続的な取り組みを行う「地域ブランド創造活動」を支援しています。

### ●「健康長寿」でイメージアップ

本県は、男女ともに平均寿命が全国第2位という健康長寿県であることから、健康長寿をキーコンセプトとしたブランド戦略を推進。健康長寿の要因を調査分析し、その結果を全国に発信する事業も進めています。

### ●「ふくいブランド大使」による情報発信

県外でイメージアップ活動を行う「ふくいブランド大使」を募集しました。1,100名を超える大使の活動により全国への情報発信を強化しています。

さらに、10月からは、職員の名刺と封筒のデザインを「健康長寿な福井です。」というロゴと本県の地図デザインに改訂しました。



「ふくいブランド」イメージポスター

## 安全で安心な県民生活の実現

### ●治安回復プログラムの推進

県では、昨年8月に策定した「福井治安回復プログラム」に基づき、さまざまな治安対策を積極的に進めています。

4月には、「福井県安全で安心なまちづくりの推進に関する条例」を施行。地域の防犯活動の中核となる「安全安心センター」を全市町村で指定し、地域住民を対象とした防犯教室を開催しています。また、急増している、いわゆる「振り込め詐欺」などの知能犯罪を抑止するため、『身近な知能犯罪』抑止プログラム』を策定しました。

この結果、昨年と比べた犯罪の減少率は、全国トップレベルになっています。

### ●国民保護計画のとりまとめ

県民を武力攻撃や災害から守るための避難、救援措置等を内容とする本県版の「国民保護計画」については、拉致事件の発生、原子力発電所の集中立地などの本県の特徴を踏まえ、全国に先駆けて策定に取り組み、12月に県の計画案をとりまとめました。今後、国の基本指針が正式決定後、国との協議を行い、国民保護法に基づく計画として整備します。



「安全安心センター」による防犯教室

## 拉致被害者家族の自立に向けて

5月22日、地村さん夫妻の帰国から1年7カ月ぶりに、念願の子供たち3人の帰国が実現し、家族全員がふるさと小浜市に帰郷しました。

県では、子供たちの一日も早い自立を支援するため、「帰国家族自立支援室」を新たに設置するとともに、若狭合同庁舎内に子供たち3人の日本語学習等を支援する「生活学習ルーム」を整備。ご家族の新たな環境での生活を支援してきました。

子供たちは日本語学習の成果を実らせつつあり、これからは、それぞれの希望する進路に向けて、就職や大学、高校への準備に取り組む予定です。

今後とも、早期に自立した生活ができるよう、ご家族の意向を踏まえて、できる限りの支援をしていきます。



地村さんご家族がふるさと小浜市に帰郷

 **BACK**